

令和6年度
地域生涯学習活動実践交流セミナー

渡島管内の取組

「多様性」を考慮した社会教育について
～ 主事会研修から ～

発表者 渡島社会教育主事会 研究調査部 部長 葛西 暁子
(函館市教育委員会 生涯学習部 生涯学習文化課)

函館市概要



“函館”の由来は所説ありますが、室町時代の享徳3年(1454年)津軽の豪族、河野政通が宇須岸(ウスケン:アイヌ語で湾の端の意)と呼ばれていた漁村に館を築き、この館が箱に似ているところから「箱館」と呼ばれることになったと言われています。

安政元年(1855年)には、日米和親条約の締結により、幕府は箱館と下田の開港を決定し、安政6年(1859年)7月1日に日本国内初となる対外貿易港として開港しました。

元治元年(1864年)には星形要塞の五稜郭が竣工し、榎本武揚率いる旧幕府軍が箱館を占領し、五稜郭を拠点として箱館戦争が勃発しました。

その後、旧幕府軍の投降に伴い、明治2年(1869年)蝦夷が北海道と改称され、箱館も函館と改められました。

概要

- ▶ 市政施行 大正11年(1922年)8月1日
- ▶ 面積 677.87km²
- ▶ 人口 236,944人
- ▶ 20歳人口 1,840人(男性:954人、女性:886人)
- ▶ 世帯数 138,514世帯 ※R6.10.31現在
- ▶ 都市宣言
 - ・安全都市宣言(昭和36年3月6日制定)
 - ・核兵器廃絶平和都市宣言(昭和59年8月6日制定)
 - ・国際観光都市宣言(平成元年8月1日制定)
 - ・スポーツ健康都市宣言(平成4年10月10日制定)
 - ・いきいき長寿都市宣言(平成6年12月10日制定)
- ▶ 姉妹都市
 - ・ハリファックス市(カナダ)
 - ・ウラジオストク市(ロシア連邦)
 - ・レイク・マコーリー市(オーストラリア)
 - ・ユジノサハリンスク市(ロシア連邦)
 - ・天津市(中華人民共和国)
 - ・高陽市(大韓民国)



詳しくはこちら





渡島社会教育主事会研究テーマ決定

道主事会のメインテーマを受け渡島社会教育主事会の令和6年度研究テーマを設定

北海道主事会
の研究テーマ

持続可能な社会の実現に向け、地域の
可能性を引き出す学びをつくる社会教
育のあり方



渡島主事会の
研究テーマ

1UP ↗ 渡島
多様性に応じた社会教育の方法を学ぶ

渡島社会教育主事会研究テーマ決定

道主事会のメインテーマを受け、渡島主事会の令和6年度研究テーマを設定

研究概要（R6年度以降）		
① 研究形態	1年目（R5年度） ・R5：サブテーマ 「アフターコロナと社会教育」	・広いワードで設定し 「何が必要か・課題か」を検討 ・活動内容 ①しゅじトーク！！（意見徴収） ②研修会（各市町／機関の事業視察）
	2～4年目（R6～8年度） ・R6：サブテーマ 「1UP↑渡島」	・R6：“多様性に応じた社会教育”
	5年目（R9年度）	・過去4年間の研究から結論を導き出す
② 研究期間	1年毎に見直し	

渡島社会教育主事会研究テーマ決定

渡島社会教育主事会の役割とは…

- ① 管内各市町の困りごとを解決するため動くこと
- ② 各行政では手の届きづらいことができる
- ③ 主事会で行ったことを地元を持ち帰り実践
→管内の社会教育の底上げ
- ④ まずは面白そうなことをやってみる



令和6年度渡島社会教育主事等研修会

趣旨

渡島管内の社会教育主事ならびに社会教育関係職員が、多様な参加者を想定した体験活動を実施し、必要な支援や配慮についての考えを深めることで、各地域の社会教育行政の一助とすることを目的とする。



研修内容

1 研修

アイスブレイク、野外炊事

(全盲・弱視・車イス使用とその介助者を疑似体験しながら活動に参加)

2 協議・函館盲学校校長による講評

- ① どんなことが活動の障壁となったか
- ② 障壁をどのように改善できるか
- ③ ほかの多様性の場合の障壁と改善策

3 演習 (多様性の視点を担当事業に取り入れよう)

4 情報提供 (渡島教育局社会教育指導班, ネイパル森)

主催：渡島社会教育主事会

研修での当事者体験方法

①アイマスク
(全盲)



②体験メガネ
(弱視と視野狭窄)



③車イス
(半身不随)



⇒ 装着して、研修を受講します。
(移動や調理の際も装着は継続です)

この研修では…

○相手の立場に立ってみること

(見えないという体感, 支援者の気持ち)

○何が障壁となるのか

○どのようなことに配慮すればよいのか

○社会教育の現場にどう反映できるか

を学びます！！



本日のアイスブレイク

1 ぶっちゃけいいわけ自己紹介

〇〇〇〇（名前）です。

私、実は〇〇です。だって、〇〇なんだもん。

2 本日のお題

- ① 四角を書いてください。
- ② 四角の上と下の部分にくっつけて丸を3つ書いてください。

例)



目が見えないと…



アイスブレイクでの気づき

◎ぶっちゃけいいわけ自己紹介

☹️ どの方角を向いて挨拶したら良いの？



☹️ **配慮が必要なこと**

- ・体の向きを、ほかの参加者の方向に向ける。
- ・挨拶が終わったらイスに座るのを支援する。

◎本日のお題

☹️ 紙はどこ？紙のどの位置に書いたら良いの？



☹️ **配慮が必要なこと**

- ・紙の大きさ、紙のどの位置に書いたら良いのかなどを伝える。

◎野外炊事 ～カレーライスを作って食べる～



アイマスクや体験メガネは
つけたまま調理します！！

👉 ここ大事

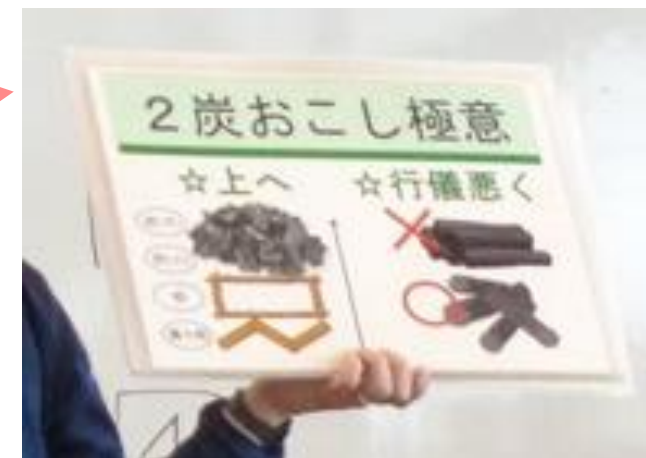


野外炊事の流れ

○机の配置や班編成



○カレー作りの説明



(拡大版)

○野菜を切る様子



○カレーを煮る様子



○カレーを食べる様子



私はできることはおまかせするスタイル ※賛否両論あるでしょうが…



(弱視体験)
俺、ピーラーでの野菜の皮
剥き余裕でできますよ！
…きれいにはできないけど
まかせてください！

(介助者)
よろしくお願いします。

…本当は目を離さずに、ずっと見守った方が良かったかな？

アイマスクをしながら包丁でニンジンを切る様子



親指に刃の反対側の柄を触れさせながら包丁を渡す。

盲学校 校長先生のコメント

- ・ 「できるか」ではなく「したいか」

挑戦したい気持ちに寄り添ってあげることが大切だ。

- ・ 無理にやらせる必要はない

少しでもできそうなことをしてもらえば良い。
そこから成長していこう。

ピーラーで切った野菜の皮を拾い、ゴミ袋に入れる様子



盲学校 校長先生のコメント

・ 選択肢を与えてあげよう

やりたいこと、自分でできることを聞いてみよう。

・ 役割を与えてあげよう

できることがあると、本人は喜ぶし、達成感に繋がるよ。

・ 部屋は明るくしておこう

弱視の人は、暗いとさらに見えなくなるから気を付けてあげよう。

イスに座って暖をとる様子



体験者の感想

- ・外が寒いから火に当たりたいけど、どこまで手を伸ばしてもいいのか不安だった。
- ・目が見えない中で、「もし転んだら…」と思うと、とても怖くなった。

盲学校 校長先生のコメント

- ・イスに座ってもらうのはとても良いアイデア！

完成したカレーを食べる様子



体験者の感想

- ・カレーを見ないで食べるのは変な感じ。できあがりが見たかった。
- ・見えないものを食べるのは不安。
…炭とか入ってないよね？(笑)
- ・スプーンの長さがわからず、口にうまく運べなかった。

盲学校 校長先生のコメント

- ・ご飯とカレーのルーがそれぞれどっち側にあるかを事前に伝えてあげましょう。

調理道具やお皿を洗う様子



⚠️ 注意

蛇口は真ん中になってるかな？
左に蛇口をひねると熱湯がでて危険！

体験者の感想

- ・ スポンジや洗剤がどこにあるかわからなかった。
- ・ 他の人も作業してるから、呼んで教えてもらうのも気が引けるし…
- ・ 包丁を洗ったあと、シンクに置くのもおそろおそろだった。

盲学校 校長先生のコメント

- ・ シンクの大きさも伝えてあげましょう。

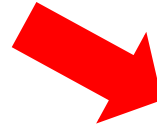
協議事項

アイスブレイクや野外炊事で感じたことを踏まえ、協議を行いました。

- ① どんなことが活動の障壁となったか
- ② ①をどのように改善できるか
- ③ ほかの多様性の場合の障壁と改善策

① どんなことが活動の障壁となったか

いつもと違う環境



ストレスによる疲れ

○ 状況把握が困難

- どこに何があるの？
具体的に教えてほしい。
手をのばしても大丈夫？
- 今はどんな状況なの？
皆が笑っている理由を教えてほしい。
少し疎外感を感じるなあ…

○ 距離感がつかめない

- 部屋の大きさがわからない。
歩くのに集中するから、
少し歩くだけですごく疲れる。
- 使い慣れてない道具
いつものスプーンと違うから
うまく食べられない。

○ 行動するのが怖い

- 歩く・立つ時が怖い
足元が滑りそう。
今、立っても大丈夫かな？
- 急に肩を叩かないで！
いきなり触られたら、
びっくりしてしまう。

① どんなことが活動の障壁となったか

○ 不安を感じる

- ・ 何もできなくて申し訳ない
何をするにも人の助けがいる。
手伝いたいけど、それも迷惑かも
…相手の時間を奪ってしまうかなあ
- ・ みんなの動きがわからない
私は、何をしたらいいの…?
- ・ コミュニケーションが図れない
はじめましてだから、気軽に話ができない…
- ・ 何を伝えたいのかわからない
あいまいな伝達だからよくわからない。

○ マンツーマンでついてくれる人がいない

- ・ どう行動したら良いかわからない。
- ・ 思いを誰に伝えたら良いのかわからない。
- ・ マンツーマンでついてくれたら、もっとできるのに!

○ 障がいの程度等に関する情報がない

- ・ 参加している障がいのある方に関する情報がないため、どのように関わったら良いのかわからない。
- ・ どこまで作業をさせたら良いのか迷う。
- ・ 声をかけるにも相手の障がいの程度や経験値によって、声のかけ方が異なってくる。

運営側の悩み

② 活動の障壁をどのように改善できるか

活動の障壁	改善する方法
<u>状況判断が困難</u>	<ul style="list-style-type: none">・周りの状況をわかりやすく説明する。・危ないものが近くにあるときは場所も含めて伝える。
<u>距離感がつかめない</u>	<ul style="list-style-type: none">・手の届かないものは取ってあげる。・火までの距離をわかりやすく説明する。
<u>行動するのが怖い</u>	<ul style="list-style-type: none">・状況を分かりやすく説明し、行き先やルートなどを事前に伝える。
<u>不安を感じる</u>	<ul style="list-style-type: none">・説明はゆっくりと繰り返し行う。・積極的に声掛けをして、ポジティブに参加できる環境を作る。
<u>マンツーマンでついてくれる人がいない</u>	<ul style="list-style-type: none">・マンツーマンで支援するサポーターをつける。・対話を通して、参加者の思いを掴み、事業参加に導く。・相手に遠慮せずに思ったことを伝えてほしいと伝える。
<u>障がいの程度等に関する情報がない</u>	<ul style="list-style-type: none">・事業への申込時点で情報を入手し、それぞれの特性に応じた対応を協議し、必要なことを準備する。

運営側の悩み

➡ 安心して参加できる環境ができる！

マンツーマンで支援するサポーターの存在の大切さ



成功例

この人がそばにいれば
安心して作業ができる。
積極的に作業に参加し
てみようかな。

…と思ってもらえる
環境をつくることが
大切！！

マンツーマンの関係を
続けることで信頼関係が構築され
た様子。
良好なコミュニケーションも
図れたようです。

マンツーマンで支援するサポーターの存在の大切さ



炭火で暖を取っている様子

マンツーマンで支援するサポーターの存在の大切さ



見づらいですけど、
傍におります(笑)

マンツーマンで支援するサポーターの存在の大切さ



カレーが出来上がりましたよ。
今、お更にご飯とカレーを盛り付けています。

ポイント

情報伝達
↓
安心感

マンツーマンで支援するサポーターの存在の大切さ



👉ポイント

- 出来るかできないかは本人が決める。
- 本人が挑戦したいことには寄り添って支援する。

～結果～

達成感が生まれる。

まとめ

◎運営側が認識しておく必要があること。



① 相手の立場にたつこと

② 支援者への事前レクチャー

③ 参加者(障がいのある方)についての事前の情報把握

◎運営側が認識しておく必要があること。

①相手の立場にたつこと

相手の立場にたつことで



寄り添う心(受容)が生まれる



配慮に繋がる

では、どのような配慮が求められるのか

・いつもと環境が違う

つまり…「全ての情報が無い状態」

⇒障がいのある方は 「とても不安」



配慮その1 『情報を具体的に参加者に伝える。』

配慮その2 『相手の心に寄り添い、
不安の解消に努める。』

見えないということは情報が無いということ

作業工程（例）	伝えた方が良く・配慮事項（例）
・場の状況を把握する	部屋の様子（座席配置，調理道具の配置等），周りの人の様子
・野菜を洗う	蛇口を真ん中にすること。蛇口を左にしたままだと熱湯が出る。
・野菜の皮をピーラーで剥く	ピーラーの刃の向き
・野菜をまな板の上で切る	包丁の柄を上にして渡す（柄を触ってもらいながら渡す）
・野菜の皮をゴミ袋に捨てる	周りに刃物等，危険物がないか見る。
・お米を飯盒の中に入れて研ぐ	そそぐ水の量。
・屋外に移動	靴の問題。情報を伝えながら誘導し移動する。
・炭で火をおこす	立ち位置から火までの距離。 安全な位置にイスをおいて座ってもらう。
・カレーの具材を入れて炒める	具材の説明。鍋の位置。注ぐ油の量
・飯盒でご飯を炊く	水蒸気が出て来た等の情報
・カレーやご飯をよそう	どのくらいの量（ごはん茶碗1杯分）をよそえば良いか尋ねる。
・食べる	スプーンの柄の長さを伝える。
・片付け（洗い物等）	スポンジや洗剤の位置，シンクの大きさ

◎運営側が認識しておく必要があること。

②支援者への事前レクチャー

相手を弱者として扱うのではなく対等な関係を構築する



対等な関係の構築が信頼を生む



コミュニケーションが円滑に進む



活動に積極的に関わる。できることが増える



「達成感」 に繋がる。

◎運営側が認識しておく必要があること。

③参加者(障がいのある方)についての事前の
情報把握



障がいのある方の情報を事前に把握し、
必要なケアを行える体制を構築しておく

最低限の安全対策は必須！！

多様性はまだほかにもたくさんあります

例えば...

- ・ 性格 ・ 宗教 ・ 地域 ・ 国籍 ・ 障がい
- ・ 経験 ・ 貧富 ・ 年齢 ・ 性の多様性 などなど

**多様な主体を受け入れる
社会教育を目指す**

**多様性の視点を
各市町村の担当事業に取り入れよう。**

函館市の事例 ー ①

○地域共生社会啓発ワークショップ

▶趣旨

参加者が他の参加者との交流や対話を通じて、地域との向き合い方や地域共生の必要性、自らが地域の中でできることについて考察する機会とし、地域共生社会への意識向上を図る。

▶テーマ (全3回)

- 第1回 「誰かとともに生きる」
- 第2回 「知らない世界とともに生きる」
- 第3回 「地域とともに生きる」

▶主催

函館市(保健福祉部地域福祉課)・北海道教育大学函館校

▶対象者

函館市内在住・在学の中学生，高校生，大学生等

まだ知らない広い「世界」と小さな「自分」 人や地域とつながりながら生きることについてみんなで考えてみませんか？

第1回
10月6日(日)10:00~12:00
「誰かとともに生きる」
【内容】オリエンテーション
～『ともに生きること』について
考えてみよう～

多様な人が暮らす社会で互いを認めあいながら「ともに生きること」について全3回で学びます。

第2回(特別講義)
10月12日(土)14:00~16:00
「知らない世界とともに生きる」
【内容】特別講義&講師とのセッション
～『ともに生きること』について
話を聞こう～

・特別講義講師
立命館大学 立命館アジア・日本研究機構
准教授 松井 信之氏

第3回
10月20日(日)10:00~12:00
「地域とともに生きる」
【内容】参加者同士の話し合い&発表
～『ともに生きること』について
一緒に話そう～

大学祭「函教祭」開催日です！
ワークショップ終了後ぜひお楽しみください！

普段感じたり、考えたことをみんなで楽しみながら自由に話す『おしゃべりカフェ』

地域共生ワークショップ 参加者募集！

対象者
市内在住の中学生、高校生、大学生
※原則3回とも参加できる方
(第2回特別講義のみの参加可)

参加費
無料(お菓子・飲み物付)

定員
50名(先着順) ※保護者の方の見学可

会場
北海道教育大学函館校(函館市八幡町1-2)

地域共生ワークショップとは??
函館に在住の学生(中・高校生、大学生)が集まり、話し合いながら、どんな人も生き生きと暮らすことのできる地域共生社会について考えます。

2023年度開催の様子

参加のルールは簡単!

- ・最後まで人の話を聞くこと
- ・他の人の発言を否定しないこと

申込方法
9月20日(金)までに次のいずれかの方法でお申し込みください。
・下記問合せ先まで申込み(氏名、学校名、学年、連絡先をお知らせください。)
・右の二次元コードから申込み

問合せ先
函館市保健福祉部地域福祉課
電話:0138-21-3022(平日8:45~17:30)
FAX:0138-26-4090
メール:co-fukushi@city.hakodate.hokkaido.jp



← 市内の学生が集まり、話し合いながら地域共生の実現に向けて必要なことを話し合う様子

函館市の事例 ー ②

○性の多様性理解促進等事業



(1) 性の多様性に関する上映会および講演会

▶趣旨

性の多様性に関する市民理解の促進を図るため、LGBT等性的少数者をテーマとした映画の上映会を実施とともに、当事者による講演会を開催し、理解を深める。

▶テーマ

「トランスジェンダーについて」

▶主催

函館市(市民部市民・男女共同参画課)



(2) 当事者による講演会&トークセッション

▶趣旨

トランスジェンダー当事者の経験に基づいた講演等を通じて、トランスジェンダーに対する理解を深め、多様な性のあり方を尊重する社会の実現を目指す。

函館市HP「性の多様性について」↓

▶テーマ

「知っておきたい トランスジェンダーについて」

▶主催

レインボーはこだてプロジェクト

▶連携

函館市(市民部市民・男女共同参画課)



函館市の事例 ー ③

○インクルージョン啓発イベント2024

▶趣旨

すべての人を社会的孤立や排除から守り、障がいの有無や年齢、性別、国籍の違いを超えて多様性を認め合うインクルージョンの理念の普及に向け、講演会等のイベントをインクルージョン未来推進機構と連携して開催する。

▶内容

- ・講演「☆インクルージョンは希望の光！」
インクルージョン未来推進機構
代表 島 信一郎 氏
- ・トークセッション（函館市長・島代表）
- ・インクルージョンに関する取組み・情報等の紹介（パネル展示）
- ・キットパスを活用したインクルージョン体験

▶主催

函館市(市民部市民・男女共同参画課)

函館市の事例 ー ④

○函館コレクション2024

▶趣旨

すべての人を社会的孤立や排除から守り、障がいの有無や年齢、性別、国籍などの違いを超えて多様性を認め合うインクルージョンの推進に向けたイベントとして、ファッションショーを開催する。

▶内容

- ・ファッションショー
- ・インクルージョンなファッショントーク など

▶主催

函館市女性会議

▶共催

函館市
(市民部市民・男女共同参画課)



研修に参加した渡島社会教育主事会の仲間たち



会場をお貸しいただきました
ネイパル森の皆さま

事業に協力をしてくださった
関係者の皆さま

ありがとうございました。